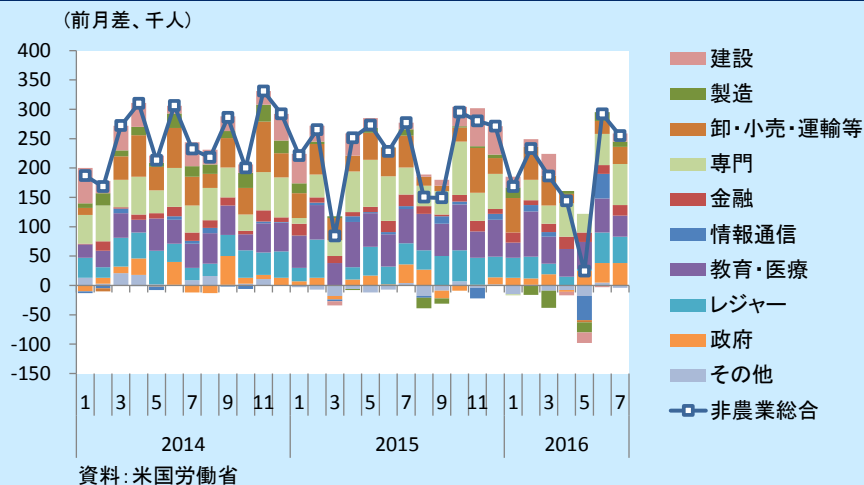


米国：雇用統計（2016年7月）

一雇用環境の改善は継続—

MRI Daily Economic Points
August 8, 2016

図表1 非農業部門雇用者数

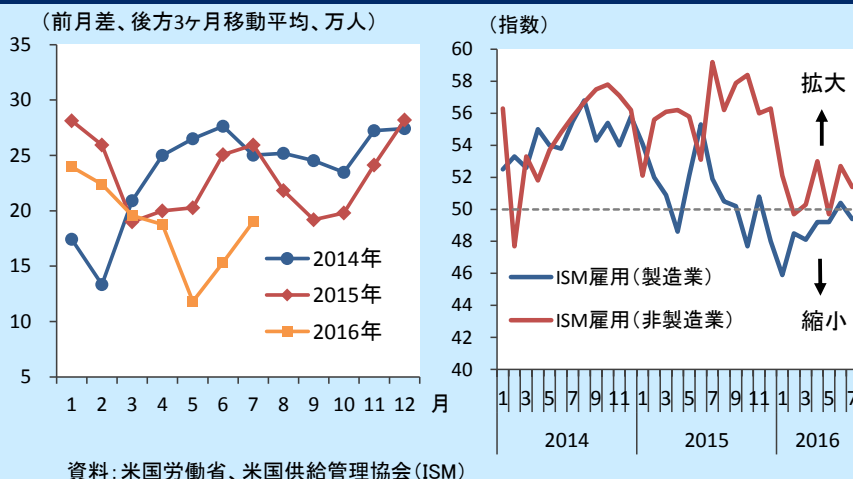


評価ポイント

今回の結果

- 16年7月の非農業部門雇用者数は、前月差+25.5万人増と、前月(同+29.2万人)に続き、大幅な増加となった。
- 内訳をみると、専門・ビジネスサービス(同+7.0万人)、レジャー(同+4.5万人)、教育・医療(同+3.6万人)で大幅な増加が継続。政府(同+3.8万人)もここ3ヶ月は高い伸びを維持しているほか、減少が続いていた建設業(同+1.4万人)も4ヶ月ぶりに増加した。一方、シェール関連産業を含む鉱業・林業(同▲0.7万人)は、14年10月以降、22ヶ月連続で減少している。
- 7月の失業率は4.9%と前月と変わらず。16年以降、FOMC参加者が想定する長期均衡水準(4.8%)前後での推移が続いている。労働参加率は62.8%と前月(62.7%)から小幅上昇した。
- 時間当たり平均賃金は前年比+2.6%と前月と同様の伸び。金融危機前に比べれば伸びは鈍いものの、底堅く推移している。

図表2 雇用者数の増加ペース 図表3 企業の雇用スタンス



基調判断と今後の流れ

- 7月は、6月に続き2ヶ月連続で雇用者数が大幅に増加。非農業部門雇用者数は直近3ヶ月で月あたり+19.0万人増と持ち直しており、雇用者数の伸びが大幅に鈍化した5月以降、雇用環境の改善が続いていることが確認された。先行きも良好な雇用環境は続くと思込む。
- ただし、15年(同+22.9万人)に比べれば、雇用者数の増加ペースは鈍い(図表2)。背景には、①失業率が長期均衡水準まで低下する中、雇用者数が伸びにくくなっているほか、②16年以降は、ドル高や海外経済の減速などにより、製造業・非製造業ともに企業の雇用スタンス(ISM雇用指数)がやや慎重になっていることがある(図表3)。
- また、英国のEU離脱や11月の米大統領選挙に伴う不確実性の上昇や、ドル高による企業利益の減少などにより、雇用の改善ペースが一段と鈍化する可能性には注意が必要である。